

# 小樽八区八景 ガイドマップ



発行：小樽市建設部新幹線・まちづくり推進室

# 小樽八区八景

小樽市では魅力あるまちづくりをすすめるために、市内を八つの地区に分け、それぞれの地区を代表する景観を八つ選びだし、市内全体で64景(8地区×八景)を『小樽八区八景』として選定しました。

選定にあたっては、平成8年3月から2年間にわたる“八景からのまちづくりラリー”と題した事業を次のSTEP1～8のメニューの内容で、市民の皆さんに参加していただきながら実施しました。

## ”八景からのまちづくりラリー”プログラム

### STEP-1 景観八景全世帯アンケート

八景にすべき景観を皆さんに推薦してもらいました。

### STEP-2 景観八景各種リサーチ

市民団体や小・中学生などから意見を聞きました。

### STEP-3 八区八素八景トークンライブ

8月8日を『八景の日』と宣言し、有識者による「八景からのまちづくり」をテーマにした意見交換会を行いました。

### STEP-4 地区毎「景観八景ゼミ」

市内各地で住民の皆さんから直接八景候補やまちづくりへの意見をお聞きしました。

### STEP-5 デザインマニュアルパネル展

長崎屋公共プラザでデザインマニュアルと八景候補の紹介を行いました。

### STEP-6 街並みウォッチング(八景候補地)

8月8日の八景の日に、八景候補地をバスで巡り、その後講演会を行いました。

### 景観審議会による八景の選定作業

800ヶ所を超える候補から選定しました。

### STEP-7 「小樽八区八景」発表

景観フォーラムの中で、『小樽八区八景』の発表とまちづくり講演会を行いました。

### STEP-8 小樽八区八景ガイドマップ作成



## 八景マメ知識

### 八景式鑑賞法

四季折々の変化や朝夕などの移り変わりに、街並みは表情を変え、私たちはその移りゆく様をとおして都市の印象や姿をとらえております。

古くから景観を鑑賞する風習はあり、中国瀟湘八景しょうしやうに始まり近江八景、金沢八景など季節の時の移ろいの中で景勝場所を定めるなど、生活の中で風土や自然景観は親しまれてきました。

### 100年前の小樽八景

既に明治9年に太政大臣三條実美がおたるの風光明媚な景観に打たれて八景選びを行っている歴史的事実があります。

- ①祝津やうの夜雨
- ②色内せいらんの晴嵐
- ③住吉しゅうけつの秋月
- ④竜徳寺ぼんしょうの晩鐘
- ⑤浜中せきしょうの夕照
- ⑥朝里らくかんの落雁
- ⑦石狩きはんの帰帆
- ⑧増毛ぼせつの暮雪

## 街の個性や魅力を知ることが 景観づくりの第一歩です。

小樽の景観では、歴史的建造物が建ち並ぶ運河周辺が代表的ですが、選定された各地区の八景を見ると、各地区ごとに魅力的な景観があることがわかります。

また、地区ごとに見比べると、普段の暮らしでは何気ない景色でも、海水浴場や岬、漁港といった海岸線に特徴があったり、眺めの良い丘や四季折々の山並みなど、緑の中に特徴があるなど、それぞれの地区で景観の特性が違うことがわかります。地域の個性や魅力を知ることが、街に愛着や誇りを持つことにつながります。

さらに、八景を通じてその地区の景観特性を理解していただき、その景観を保全し、八景にさらに磨きをかけ、地区の個性を生かした快適で魅力ある景観づくりに、今後とも協力願います。

# 銭函地区

## 地区の特徴

札幌市に近接し、平坦地に富み、工業・住宅地として開発がすすんでいます。JR線より山側及び桂岡方面は斜面に市街地が広がり、そこからは石狩湾新港までの約10kmにわたる砂浜の海岸線が見渡せます。また、薬科大学や公営住宅などが低層の街並みの中でランドマーク(目印)となっています。



①薬科大から望む石狩湾

標高約100mで180°以上の範囲が見え、石狩湾を囲む長く延びた海岸線と、市街地を一望する。



②十万坪線の桂並木

国道5号から直角に、桂岡の斜面を上る約2.5kmの坂で、カツラ並木の間に海を望める。



③開拓時をしのぶ銭函駅と豊足神社

マンサード屋根が特徴で、地区のランドマーク的存在の駅舎と、その裏の丘に鎮座する神社が開拓時をしのばせる。



④赤別荘と御膳水

※赤別荘(坂別邸)は平成19年5月の火災により消失しています。



⑤銭函前浜の漁

ホッキ漁の小舟が波間にゆれる向こうに、時間の経過とともに表情が変わる赤岩山と高島岬のシルエットが望める。



⑥ハマナス咲く10キロメートルの砂浜

市内でもっとも長い砂浜で、ハマナスの花が海岸線を彩る。夏場はヨットやウィンドサーフィンの風景が楽しめる。



⑦銭函天狗の遠望

標高536mの特徴ある形で、見る場所により表情が変化し、地区内のどこからでも見えるランドマーク。



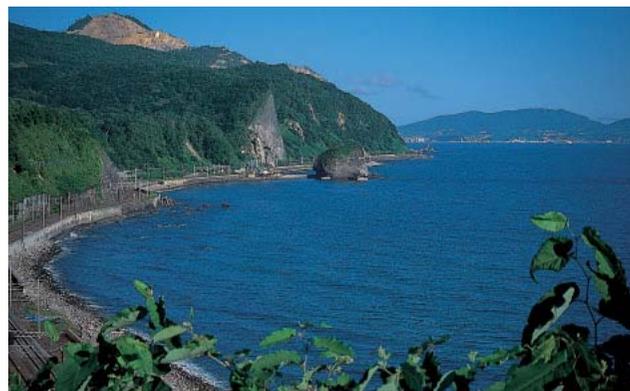
⑧広大な工業地と石狩湾新港

平坦地に開発された工業団地と、石狩湾新港が、この地区の広さを感じさせる。

# 張碓地区

## 地区の特徴

断崖の海岸線と、三方を山に囲まれた沢沿いに街が形成されています。市の鳥のアオバトが恵比須島に飛来することでも知られ、美しい自然景観が特徴です。上空を横断する張碓大橋がランドマークとなっています。断崖越しに海岸線や海を見渡せることなどから、住宅地の中にホテルなどのリゾート施設が建築され始めています。



① 張碓カムイコタンの断崖

線路が曲線の連続となっているため、乗っている電車から、断崖、海、小樽市街などの風景が移ろう。



② 春香山スキー場からの眺望

紺色の石狩湾と折れ曲がる海岸線、冬景色の市街地が一望でき、ナイター時は銭函方面の夜景も楽しめる。



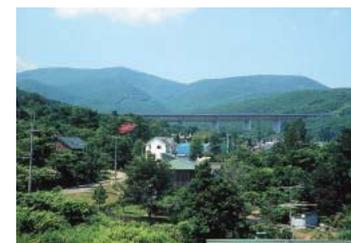
③ アオバト飛来の恵比須島

「市の鳥」アオバトが飛来することでも知られ、張碓海岸のランドマーク。



④ 義経トンネルと煉瓦の橋

明治13年幌内鉄道開通時のトンネルと隣接する煉瓦の橋脚が現存し、開拓時の貴重な遺産となっている。



⑤ 緑につつまれた張碓のまち

三方緑で囲まれた沢沿いの集落は、桜や紅葉等季節ごとの表情が豊かで、近年はリゾート風建物も増えている。



⑥ 景勝園眼下の海

標高約150mの張碓岬から見おろす海と紅葉時期の自然景観。



⑦ 張碓川とアーチ橋

張碓の自然に囲まれた住宅地の中を流れている川と、そこに架かる旧国道の特徴的なアーチ橋。



⑧ 八眺山からの眺望

標高約240mの丘陵で、歩こう会などで住民に親しまれ、林間から海と銭函方面を一望。

# 桜・朝里地区

## 地区の特徴

早くから土地区画整理事業により、良好な住宅地として発展し、近年は望洋パークタウンの大規模開発などにより、朝里川を挟む丘陵沿いに住宅地が広がっています。海水浴場、朝里川温泉、スキー場、オタルナイ湖などにより、レクリエーションやリゾート地のための整備がすすみ、また、国道5号沿いには郊外型物販店が増えています。



①張碓トンネルからの小樽港

小樽港と市街地が見え、市民には小樽へ帰ってきたことを実感させる風景で、特に夜景は美しく街のあかりが心をなごませる。



②銀鱗荘と平磯岬

鯨御殿のある岬が小樽港と中心市街地へのゲートとなり、ランドマークとして、市民にも親しまれている。



③桜ロータリーと熊碓神社

神社から望むと坂道の先にロータリーが見渡せ、高速道路越しに平磯岬と海が望める。



④望洋台から望む朝里のまちと海

毛無山の尾根に広がるニュータウンから、新光・朝里の市街地と海が望める。



⑤朝里川温泉郷とスキー場

スキー場も間近にある市内唯一の温泉街は、山と川に囲まれた四季折々の自然を満喫できる。



⑥オタルナイ湖とループ橋

山あいとダムの空間を巡るループ橋はダイナミックなパノラマが楽しみ、水面に山並みが揺れる湖が美しい。



⑦紅葉の朝里峠

曲がりくねった道路から山並みの変化が楽しみ、特に山が赤く染まる紅葉時期は美しい。



⑧毛無山からの雄大な眺望

標高約548mの毛無山にある展望所からは、小樽の中心部や朝里方面の眺望が楽しみ、夜景も美しい。

# 中央地区

## 地区の特徴

港から山に向かって放射状に街が広がる景色は、古代ローマなどの野外劇場をイメージさせます。坂道や丘から市街地を見渡すことができるため、日々の暮らしの中で、街全体の四季の移ろいや表情を知ることができます。運河周辺では歴史的建造物が保全され、新旧調和のとれた街並みづくりがすすめられています。



①小樽運河と歴史的まちなみ

往時の繁栄を物語る運河と歴史的建造物は、小樽の顔として親しまれている。



②栗林と桜の手宮公園

栗林の北限でも知られ、栗ひろいや花見などで市民に親しまれる。緑化植物園からの眺望も楽しめる。



③海からの街なみと山なみ

斜面に広がる市街地と、その後ろにつらなる山なみが特徴的。街の光が水面に揺れる夜景は港町おたるを感じさせる。



④坂の街の船見坂

坂のまち小樽を代表し親しまれている。坂の先に港に停泊する船が見える。



⑤小樽公園の春夏秋冬

まちの中心に位置し、桜・ツツジ・紅葉など四季を問わず、多くの市民が訪れる。



⑥旭展望台からのまちと港

標高190mの市街地に突き出た丘陵で180°以上の範囲が見え、市街地と小樽港を間近に俯瞰できる。



⑦奥沢水源地緑映

野鳥の声と水の音がこだまする水面を山の深い緑が取り囲んでいる。紅葉時期が美しい。



⑧天狗山スキー場からの増毛連山

標高約530mで急な斜面越しに、冬景色の市街地と石狩湾、そして遙かにつらなる冠雪した増毛連山が一望できる。

# 祝津・高島地区

## 地区の特徴

古くから漁業で開け、小樽の主要な水産基地として栄えてきました。変化に富んだ海岸線沿いにはにしん番屋などの歴史的建造物も点在し、高島岬や日和山灯台がランドマークとなっています。水族館や祝津マリナーがあり、観光・海洋レクリエーションゾーンとなっています。また、丘陵には大規模な住宅団地が開発されています。



①江差追分碑からの海・崖・灯台

国定公園の東端部分で、海をバックにした灯台のある高島岬や断崖、市街地側と360°の眺望が楽しめる。



②下赤岩山からの日本海

標高約278mで自然探勝路の途中に位置し、海と高島岬を眼下に見下ろす景色は圧巻。



③赤い岩の断崖

海より垂直に切り立つ断崖の赤い岩肌が勇壮。



④祝津漁港とマリナー

祝津漁港に停泊する漁船の活気と、マリナーの白いマストがかもしだすのどかな雰囲気が対照的。



⑤にしん番屋のまちなみ

にしん漁で栄えた漁村集落の面影を伝え、今なお番屋や石造倉庫が連たんして残る街並みが特徴的。



⑥豊井浜から望む高島岬

断崖の重なりの方こうに見える、緑の高島岬に赤い屋根の鯨御殿と白い灯台が特徴的。



⑦弁天島と高島漁港

多数の漁船が停泊し、小樽の漁港基地としての活気があり、弁天島がランドマーク。



⑧越後踊りと高島神社

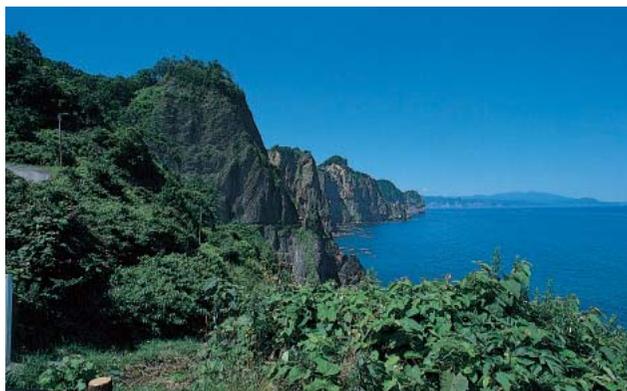
高島の市街地と弁天島のある高島漁港、そして鳥居越しに小樽港まで望める。境内裏では越後踊りが行われる。



# オタモイ・赤岩地区

## 地区の特徴

赤岩・オタモイ海岸は国定公園に指定されており、奇岩や絶壁など勇壮な海岸線をフェリーや遊覧船から見る事ができます。オタモイから祝津までである自然探勝路からは積丹方面も望めます。また、四季折々の表情を身近に見ることが出来る赤岩山の南斜面には住宅地が広がり、高台からは遠く札幌方向も見渡せます。



① 積丹へ続くオタモイ海岸

断崖に沿った遊歩道の真下で波が岩にはじける荒々しい自然景観が特徴的。夕日も美しい。



② 海から望む奇岩断崖

蘭島まで続く海蝕崖が国定公園に指定され、遊覧船やフェリーから勇壮な海岸線が楽しめる。



③ 龍照寺から望む青い海

龍照寺を越えた所から俯瞰する透明度の高い海と足をすくませる断崖が特徴的。



④ 山中海岸

自然のままの姿の静寂を感じさせる海岸は野趣あふれる。



⑤ オタモイの唐門

オタモイ海水浴場へ向かう通りの丘の上に位置し、かつてのリゾート地のにぎわいを今に伝える、地区のランドマーク。



⑥ 小樽海岸自然探勝路

オタモイから祝津まで約9km続く探勝路で、途中何ヶ所かで国定公園内の変化に富んだ断崖や積丹方面を眺望できる。



⑦ 赤岩山からの眺望

標高約370mで市街地と小樽港を俯瞰する。夜景は札幌方面までの明かりが視認できる。



⑧ 赤岩のロッククライミング

ロッククライミングの練習の場として親しまれ、断崖絶壁を登る風景は雄大さと厳しさを実感させる。

# 桃内・塩谷地区

## 地区の特徴

丸山のふもとの山あいを抜ける農道沿いには、畑や果樹園が連なり、自然が豊かな田園風景が広がっています。また、途中の駐車場からは緑に囲まれたゴロダの丘と、砂鉄の黒い砂浜で知られる塩谷湾を見渡せます。国道5号沿いには自動車ディーラーや工場などがあり、両側の斜面には住宅が建ち並んでいます。



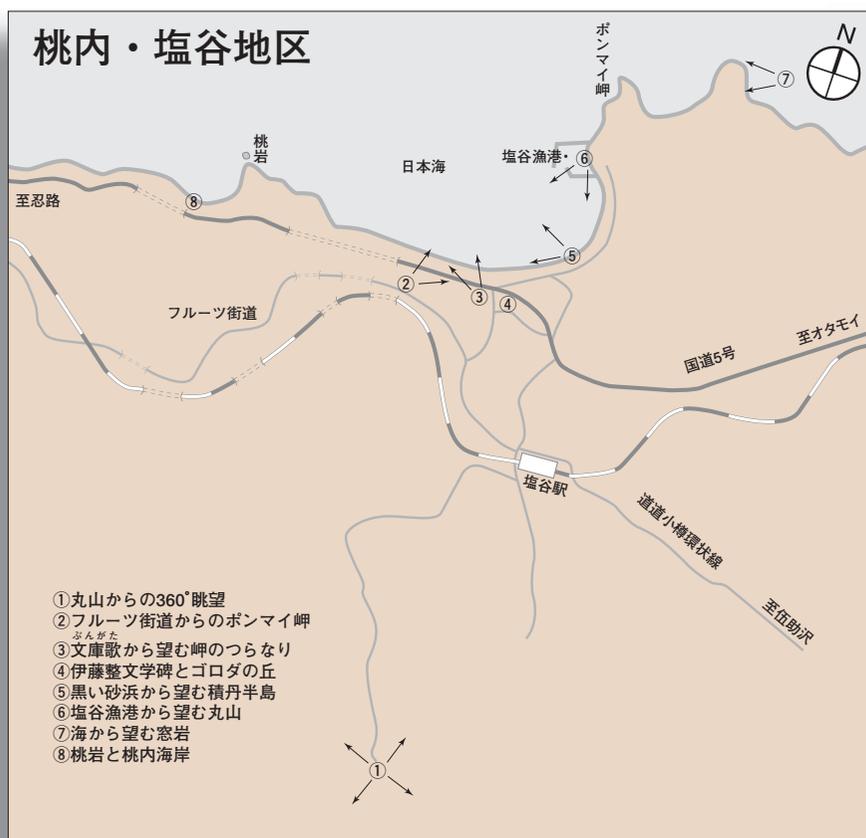
①丸山からの360°眺望

標高約630mで、余市、積丹、忍路、塩谷、石狩湾、天狗山を眼下にほぼ360°の眺望が楽しめる。



②フルーツ街道からのポンマイ岬

近景に田園風景、中景に市街地、遠景に塩谷湾とポンマイ岬が俯瞰できる。



③文庫歌から望む岬のつらなり

文庫歌の船だまり越しに岬が連なる風景は特徴的。



④伊藤整文学碑とゴロダの丘

標高約30mで、伊藤整文学碑の建つ小公園。塩谷の市街地とポンマイ岬が見渡せる。



⑤黒い砂浜から望む積丹半島

砂鉄の砂浜から青い海越しに、積丹半島を望む。特に夏は、水平線に沈む夕日が美しい。



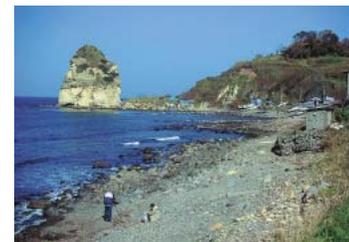
⑥塩谷漁港から望む丸山

塩谷の漁港越しに、地区のランドマークである丸山が正面に見える。



⑦海から望む窓岩

せり出した岩に空いた大きな穴は、奇岩や絶壁が続く海岸線のなかでも一際特徴的。



⑧桃岩と桃内海岸

海水浴場として、住民にも親しまれる海岸線で、桃岩はアクセント的なランドマークとなっている。

# 蘭島・忍路地区

## 地区の特徴

岬の緑と入り江の水面の色を刻々と変化させる夕日が美しい忍路湾と、北海道海水浴場発祥の地として夏場に道内有数の賑わいを見せる蘭島海水浴場で知られています。農道沿いには田園的な自然景観が広がり、また、忍路環状列石などの史跡があり、多くの埋蔵文化財が発掘され、古代の歴史を感じさせる地区でもあります。



①夕日が映える忍路湾

標高約60mの岬に挟まれる静かな湾内の風景が美しい。特に岬の緑と海の色が刻々と変化し水平線に沈む夕日は神秘的。



②竜ヶ岬とカプト岩

忍路湾の東側に位置する自然の色濃い岬と先端に位置するカプト岩がランドマーク。



③緑と古木に囲まれた忍路神社

市内最古の歴史的建造物と樹齢100年を越えるイチヨウが立つ境内が、忍路の歴史を今に伝える。



④忍路から望む桃岩・塩谷海岸

国道5号沿いの断崖に桃岩がアクセントとなり、遠くには赤岩山を望める。



⑤忍路のストーンサークル群

点在するストーンサークルが太古への想像力をかきたてる。シリバ岬方面が望める。



⑥道内初の蘭島海水浴場

道内海水浴場発祥の地であり、砂浜が美しく市内外から多数の海水浴客が訪れる。



⑦蘭島海岸から望むフゴッペ岬

蘭島海岸の余市側に延びる小さな岬は、砂浜の静かな波打ち際の風景に溶け込む。



⑧フルーツ街道ぞいの田園風景

起伏の多い地形に、ビニールハウスや果樹園が沿道に広がる田園風景が特徴的。